

暑かった熊本の夏


熊本市の8月の平均気温は30.8度で、1890年の観測開始以降、最も暑い8月となったそうです。8月の熊本市は、最高気温35度以上の「猛暑日」の日数が26日、最低気温25度以上の「熱帯夜」は28日に上り、観測史上最多となったそうです。1か月の平均気温は30.6度（平年値28.4度）、最高気温の平均は36.2度（同33.3度）となり、これらも観測史上最高を更新しました。なんと、これは沖縄の那覇市よりも暑かったということになります。




この暑い夏の原因の一つとして、ダブル高気圧が考えられます。ダブル高気圧とは、夏特有の太平洋高気圧と、西から伸びてくるチベット高気圧のことです。この二つの高気圧が重なり合うことで、晴れる時間が長くなり、夕立が起きにくくなります。上の図からもわかる通り、太平洋高気圧は、例年九州から外れていますが、今年は九州北部にかかっています。チベット高気圧も例年は九州をぎりぎり覆う形ですが、今年は完全に九州を覆っています。そう言えば、今年は夏の風物詩の夕立が少ないと感じた方もいると思います。夕立が降らないということは、地球の打ち水効果が少なくなり、気温も下がらないという結果になります。

さらに、今後の見通しとしては、9月の前半は、平年に比べてこれまた気温が高くなる予想が出ています。暑い夏はもう少し続きそうです。

帯西イエローの心を見付けました

3日(火)の昼休みに、ムラサキ広場(中庭)で、4年生の男の子たちが、ベンチを動かしていたそうです。職員室に居た職員が、何をしているのか尋ねると、台風対策でひっくり返してあったベンチを、みんなのためにと元に戻してくれていたそうです。始業式に「『 帯西イエロー』の心で『学級・学校のために力を合わせて行動しよう!』と伝えていたので、このような行動はとても嬉しく思いました。



また、朝から委員会活動やボランティア活動に進んで取り組んでいる子供たちもたくさんいます。「 帯西イエロー」の心は、2学期も子供たちの中で活躍しているようです。

熱中症予防に向けて赤・黄カード

今日の記事にも書きましたが、暑さはまだ続きます。そこで、高山養護教諭の発案で、熱中症予防運動指針に基づいて、赤・黄のカードを児童玄関に掲示することになっています。赤カードは「運動は原則中止」、黄カードは「厳重警戒(激しい運動は中止)」としています。黄カードの日に、外で遊ぶ場合、帽子を必ず被り、水分補給を3回以上は行うなどのルールを今日の昼休みの校内放送で共通理解しました。

